



中村俊定文庫
文庫 18
345



唐使抄之發紀

郭史述



夫風雅之人乃操一石所特
 名而聲聞於世顯其世理也
 辨其時之別一以辨其世之
 上人子也余以此一石為
 雅人之常而神志之
 持之者道之貴也

月夜娘押茶乃乃の御名を
 州くにあつた眺望の務地竹
 静の月今頃の玉川を云へ
 抄りくがわ言地のみち、
 転心ふりて敷島
 正一のしき名へ
 後乃くふ一の御名
順先生の御名

上官十三郡と志り、
 御名が仁徳天皇の御名
 送中記と西海平入のほし
 業一の御名
 賜よの地をい
 傳おら後々
 地ありて御名
 位を東生

中、カリの記ありや今世俗のつよあはれ
少無言名を呼ぶる流川といふも、又
地母のめを傍頼御乃詠まうと世の中
河舟とて、くまう川流す皆わらむと
又母集りて乃結ぶるなると近きし
やハ、倭風古記といふ婦みのうらハ
上り毎半流り流る、物ありを探求

うもつら、今や一州十二郡偶々予
同性の土埴がれを指すといふ山乃色
川、是流連方輿、梅本結形、人字の
善い事、うけ悪き事、けつ、制
類、うし乃、古、山、一、玉、本、流、り、
獨歩の老乃杖のあはれ、うら、けえ
信吉、歌、を、ゆ、け、お、ま、乃、雲、み、み

わさきし竹鹿又尋

あつち

于所玉磨ハ乃ヤ
夏四月十三日
多福 乃ル上小
外の一向を張

麻うぬおをゆり

庵主

梅善

也



各錢別

家師位... 此国の...

十二郡... 拾ひ貝
字引 哉影三神乃交あ立
ゆり人を友と卯月の聖明
おのへる今と松尾神ハ此
海や... 紫衣や...
涼... 柳...
山... 螢影
素袷や道の傳... 柳

備別詞

竜子 芦従 仙容 假韶 東岡 尺磨 士口 虫彦 贅柳



ククや老師乃首途をこえ遠く早良才を接上小錦を
かすつてかけぬに故をに大羅を拵りて道祖神子手な
つきの玉のついでに疾かへりたふとやかききる宿ぬるら
賢大し下候お乃れを子さをそりし

揮照や 師乃首途をこりし 蘭巴
升早盛血 師乃首途をこりし 梅尺
有明戸小川を 師乃首途をこりし 翠門

錢別 師乃一州のりき
おくつりし

國を織 神山うらや 係と ぬす ぬす
唇乃墨工早 名所の 禊もう那 田雄
帷子能懐厚 小短冊 主日馬

程なく生玉乃境内わくわく 野陀を青小川掛
天より安給ぬ 松原塚をくし 北白田野家々乃古墳を
絆一坊サ 太く大江の岸木は 玉手能園
世依テツカとりの玉を解 地名尔よ解し
の 初よりして西行法師能よこ 何やさるはや乃
中山と 詠すわゆる時 師の 寺か 師 丸と 師
北田寺 林南寺能 林を 師の 寺か 師 丸と 師
園寺山も 師の 寺か 師 丸と 師
や 師の 寺か 師 丸と 師
を 師の 寺か 師 丸と 師
枕の 師の 寺か 師 丸と 師
心も 師の 寺か 師 丸と 師

懐中の硯を^{つと}と交をりて日記つ^つつあるはあ^あの^の月
よきを徳セも未^未すい^いわ^わす^する路^路不^不粗^粗語^語セ^セハ^ハ又^又

布^ヌ若^カ女^メの神^{カミ}なるも^もしゆ^ゆ近^{チカ}所^{トコロ}を

十五日奥村^{奥村}淺^浅山^山をた^たりあ^あん^ん北^北油上村^{油上村}跡^跡を^をあ^ある^る
故^故あ^あら^らく^く親^親に^に因^因ら^らる^るゆ^ゆえ^えの^の理^理あり^{あり}サ^サレ^レ久^久病^病外^外
例^例な^なら^らず^ずは^は河^河原^原の^の山^山に^に歿^歿あり^{あり}た^たり^りは^はか^から^らず^ず
今^今収^収ま^まり^りし^しり^り

入^イ半^ハの世^セ帯^{タイ}と^とん^んや^や入^イ夾^カ々^々

遠井^{遠井}乃^乃わ^わ郷^郷乃^乃小^小沢^沢田^田村^村松^松本^本の^の松^松が^があ^ある^るを^を訪^訪仰^仰
兼^兼若^若及^及へ^へふ^ふか^かの^の西^西画^画松^松を^をら^らる^るや^やん^んに^にあ^あら^らる^るを^を訪^訪
三^三伏^伏ハ^ハハ^ハづ^づど^ど秋^秋の^のか^かの^のな^な
午^午飯^飯酒^酒か^かと^とあ^ある^るは^はお^おち^ちり^りか^かま^まけ^ける

昔^昔孫^孫子^子村^村不^不動^動院^院、之^之に^に、い^いろ^ろり^り用^用あり^{あり}し^しは^はあ^あら^らる^る又^又これ^{これ}い^い
を^をい^いふ^ふ小^小色^色多^多松^松河^河入^入池^池々^々の^の卒^卒野^野ハ^ハ町^町松^松江^江

喜^喜連^連与^与三^三色^色の^の鹿^鹿舎^舎村^村に^にむ^むり^り高^高津^津宮^宮古^古乃^乃時^時一^一馬^馬
亦^亦其^其名^名を^を知^知る^るし^しる^る後^後田^田酒^酒君^君、乃^乃松^松江^江に^にあ^あら^らる^る
は^はめ^めく^く鹿^鹿舎^舎を^を合^合と^とし^して^て也^也今^今浄^浄賢^賢寺^寺あり^{あり}て^て住^住持^持の^の
物^物候^候々^々雨^雨日^日か^か記^記ル^ル抄^抄紙^紙社^社内^内酒^酒君^君乃^乃社^社炳^炳然^然々^々と^とあ^あら^らる^る
梅^梅権^権乃^乃流^流鹿^鹿舎^舎ら^らる^ると^とあ^あら^らる^る又^又松^松江^江の^のり^り日^日に^にし^し

又^又西^西村^村南^南福^福寺^寺乃^乃社^社を^をあ^あり^りて^て村^村北^北に^にあ^あら^らる^る
桑^桑津^津村^村同^同新^新家^家の^の社^社に^にあ^あら^らる^る諸^諸人^人の^の学^学を^を補^補く^く小^小け^けり^りは^は
乃^乃か^から^らる^るに^に今^今を^をあ^あら^らる^る茶^茶店^店の^のけ^けさ^さる^るを^をあ^あら^らる^る
そ^その^のお^おち^ちの^のつ^つと^と入^入ら^らる^るに^にあ^あら^らる^るを^をあ^あら^らる^る
八^八橋^橋や^やく^くり^りら^らふ^ふ天^天に^にあ^あら^らる^るを^をあ^あら^らる^る

又^又西^西村^村南^南福^福寺^寺乃^乃社^社を^をあ^あり^りて^て村^村北^北に^にあ^あら^らる^る
桑^桑津^津村^村同^同新^新家^家の^の社^社に^にあ^あら^らる^る諸^諸人^人の^の学^学を^を補^補く^く小^小け^けり^りは^は
乃^乃か^から^らる^るに^に今^今を^をあ^あら^らる^る茶^茶店^店の^のけ^けさ^さる^るを^をあ^あら^らる^る
そ^その^のお^おち^ちの^のつ^つと^と入^入ら^らる^るに^にあ^あら^らる^るを^をあ^あら^らる^る
八^八橋^橋や^やく^くり^りら^らふ^ふ天^天に^にあ^あら^らる^るを^をあ^あら^らる^る

十リ終、南を望み河田川亭あり、笠をぬく志ありの
 ころを渡り、一復れし出づ、無意りへいざたけり、くそ
 思ひ侍り、明のよき日、一交り、東へ、好金利ち
 御傍山、小波木野村、猪飼野、鶴のけり、いへをわたり
 田島、梅ら中川、大伴、江、獨史、いへ、東生、野
 岸の堂、いへ、みよ、同中、陸道、終、尺、中、いへ、あ、
 指河乃、境、終、北、東、通、いへ、深江、新、家、乃、いへ、いへ、
 かい、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 北、東、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 今、里、三、邑、永、田、本、庄、森、嶋、野、北、寺、堂、放、出、村、八、指、河、境、
 あり、和、川、あり、劍、堤、と、いへ、北、般、若、寺、村、つ、き、て、榎、並、と、いへ、
 と、の、境、指、河、乃、同、を、め、り、と、いへ、鮎、江、川、を、わ、り、下、過、村、今、福、村

蒲生野田野江内代中野村何某乃家、いへ、いへ、いへ、いへ、
 思ひの外、あり、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 中乃、終、四、五、下、を、過、す、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 連、いへ、同、難、の、お、ら、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 乃、いへ、白、居、を、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 お、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 棟乃、花、継、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 今、ま、十七、日、川、崎、から、東、照、堂、を、遠、隔、
 堤、通、り、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 貝、腹、上、過、村、を、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 南、島、本、村、小、終、馬、場、別、所、般、若、寺、茶、に、いへ、
 いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 今、ま、十七、日、川、崎、から、東、照、堂、を、遠、隔、
 堤、通、り、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 貝、腹、上、過、村、を、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、
 南、島、本、村、小、終、馬、場、別、所、般、若、寺、茶、に、いへ、
 いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、いへ、

南北を以て流路 下向多敷伊勢系諸山 曹洞宗本尊乃
北石小掛より八間山道元因所伊勢より画像之 硯乃丹を
教の中お染をかきつけたる所を毒草を以てし 硯
硯升や字久我次乃 考北入る あり
能因乃着馬跡も、せり所末流のよーちり乃倍々すめり
輪を造りたる、漂掃おこしん也

情い 秋庭樹多 落一夏あま

情もやびおや指乃ちあましく生駒の山を以てし 硯乃
多ハハ庵あり 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃
硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃
硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃
硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃

原村 秋成合村かんと 奥より 今を考ふるの所なり

之実のく のちや 物凡か之能

安満村下村別所丹波谷 梶原神内 梶井村 待宵小竹 従
乃ち基あり 挿判官正成 多摩 登發向乃時 手執力をわけて
河内へ去り 硯乃ちあましく 廣瀬村を以てし 硯乃ちあましく
是地 梶乃境あり 山崎の西より 遠入口 山城に属する 硯乃
ハ情を以てし 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく

御朱印乃木の間 硯乃ちあましく

嶋上郡 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく
上牧 弱殿 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく 硯乃ちあましく
汗拭きくわ 旅舟く 雉乃ちあましく

上より下へ船の来りしを呼かけぬよ銀るや
又し一握をかくし又伸くすすけの坊を
いかしはしこ掃めりしをせんか
か

かき飛ぬるや鶏その
かか舟

又し一握をかくしはめ懲て坊を呼か
高柳飛押とて飛来りし舟よ
かか舟の来りかくし船ハ端を撰て

真 冷に 銅盤し下り

八軒より船の来りし松江町利白の舟を
大由の通れ日里大之鉄をを出し天神橋
中古絶る 国府のやとらぬは乃ほりし二艘の

舟めくは運送の今船をなつて早地を
一之堂の北ののせれをわし之のよ
四五下竹サニ色名を同い人
士ハハ向の門なるも坊師乃癖
入しわし人違し物徳乃門武杖
かかぬに銀酒かきぬる

弓掛言 みる ぬる 中 笠 廿

江坂村乃御坊の舟は月足
地蔵の坊やの舟に二里ハ
赤穂乃舟人かく大石内御舟
かやの二まの産地は家脈ハ
舟乃船尻穴の舟は地蔵院小舟
下下取し

廿二日祖師堂詣り、後乃細乃その月、山峯は、
 一里半計り、往き高山越ゆる山、下ハ川、内村、
 豊嶋乃郡内、入郷より、能勢郡、
 切畑村、在郷の内、按丹入郷、古代村、
 乃、今多、
 瑞籬、
 天より、
 乃、
 俵月乃、

山崎の西を、
 乃、

鎌三日

乃、

十月いの日、
 都鄙とも、

池も産、

乃、

谷つ、
 石塚ハ、
 氏屋日、
 乃、
 北、
 乃、

下は伊勢路なるも冨さよ夫婦のりね一礎のり

標乃系通うと尋いもあつものる

引野村を西へ根根官道に山内上田尻村より各月峠
といふ處なる頂小石塔三本あり中央におたき小石塔又目の
志をいふは右を能智苑人家包各月峠の夫婦を建
つたよ言はれり村より通う縁起のり

又下は煤出と尋いもあつものる

峠を西へ相原村のり此邑小若谷足牙に流るる忠義我
乃其あり鬼王園三良の故郷といへり農人語録倉夜対
の後か二人發心して石塔三本を建てし徳田行
寺必小石塔三本を建てし徳田行寺に
ナ存内小石塔三本を建てし徳田行寺に
並へり土依救薬師と異名に病痛を祈ふか

寂乃外西南へ下計りまろく水合廣く十郷なる
叢社あり是十言祐成五良時宗乃靈を相殿して二人の
法海と宗乃のりいへりいふは白忠乃衣のり
ある所多むへたり或一生に事なる

義士忠臣花もよれり乃ち

是より下田尻、出、峠あり川邊に田嶋ありいはる
高代寺山を冠し横大路より小文連寺なる所あり
乃ちありの跡地を館とすといふありやとすといふあり
親子の隔心分るあり

七寶乃當をり

下山院之平あり七宝山の額に用祖大あり

七寶乃當をり

下山院之平あり七宝山の額に用祖大あり

七寶乃當をり

下山院之平あり七宝山の額に用祖大あり

いほきむすれく絶り危証乃事一例不傷と一海浄古
知世屋乃末門早安静一と家園法所独行とり詮算
いそお乃く文書上人の生れをくし橋本村並み山
此よの事所みとれ背戸早南天乃大橋をや一山
佛の情より一原行ひ乃坊毎引身浦山れ一山

覚了及捨れくお真や嘆
吉川や証乃儀夕、祈了雲有

廿五日新河より乃や戸打係一折師一後乃乃聲平尔
まにまに山鳥の鳴るをゆめゆる閑静なり

お土おハ中儀あり
おい早しきハガ

家門早考乃をゆめ蘭一吸れ又後今わいの時り覺

とらやをい飛輪を結ぶにて頂小のけり飯詰り
物難乃婦一おハいおおいおらり
やくを祝一しけり
あさかき飛りハ

花いろく山乃寫貴を鏡つね

い山尔も銀を振出し夕飯ありくくくく竹際部山下所ハ吹屋軒
を並へり多田乃銀山並一山ありしとさあやんく
振出し山並銀をけ町、持運の事あり市ふけり商小を
おいゆ分うふ之地隣一と順路一利下原村善福寺と
をくををい儀あり下甲力に教よりと筆をさしりし時
そ宵ありおれありし所とる、庭小積り

和崇ハいんハい好くくむつ一合あり
本乃詳ありい竹のまほほあり

上野村より山廣根、越く三星計り計り山より遠くあり

弱く銀を了出し川を流し吹雪中へ築き山を歩み
かいて道は埋れしを今瓢箪まぶの異名を流石同夫と
吹丈工乃一名がほし夢及くいと世説を〜此町迄を
も今、漸く〜あゝ多ふおちろ〜人の住りも多〜
何れお五を三りと此南内なるか何〜か〜
かのを〜思ふもいづれ家ある入りの遠る〜

我々め乃庫ふかか記る度哉

峠をくつ〜越して川を郡大原町をよる北総路を
丹波へ越るを柵腰峠ト云西へ渡り村をけり行有馬郡
秀下三輪へ出そより又北へ母子村とわら大王峠トよる
かくて枕村へ越ゆる道又三輪より中道西へ三田乃町出
垣下也そより北へ薩州庄へけり日出坂峠をい川井村へ
けりより岳山一里餘竹田福知山の住還と又四辻トよる

高直庄、不徒代、わら大川御村とわら三田峠柵丹接の
出會乃所三田より南へ道帯川系、行西へ宅原岩屋と
か、流赤松峠、と道〜州壁村西林寺とわらや〜
求修り

あるふ村又〜りお〜あり〜桐乃基

和尚乃〜の能りお〜
旅舟の物〜れちふ〜
近きゆ〜み所か〜を店あり〜
本町のり〜更〜を〜り〜核相〜
〜から〜り〜和〜依〜け〜と〜
〜紙〜

あ〜り〜此湯取ら〜る〜田村名〜村
下山口山中野村より湯を、か、ぶ〜道〜

月隱堂山拳扇偷

風息大虚勤樹偷

大師乃詩賦情〜り〜
遊平御のお〜え〜なる〜
〜お〜ま〜

福多く湯山早ゆら杉おけ地まある遊ひしとや
けを替余まおたりぬ何うも此湯せがれと又知し
湯二人とてやとて湯一町ありの野中まをなく物家
乃お根お根おらうやにわ村伝の世お年おなまを
流石早時め紀屋やれ借し湯口をらぬあはく
おの流いしへたうにせれお何おあはるてか
ご編りしうお擔言ひまを任あうて飛たしおのほ
ゆへまふ流のまを系をうとあうて何の家しーか
永先をとぬしおはわうしれと意をわらみたの

揚本乃撰りてあはぬ遊か

おくの場早一町のりおを出しし池坊共備のありし
何れおをて川系又遠くぬぬ又遠くしりおす

常ふかたぬ詞がふと川遊らる家海と京口はあ
て次御りりる世乃ありし

ぬくまに雲も帰し人い道

廿九日州壁より出く南西二良村五社唐櫃を道した
と原道右の丹生山道とありし山田庄の上谷上村
原野村栗花落理た遊ふやとて

日月はひるし雨やけ白乃富貴

と分母後しと出んとはるふと海の中いしと又探り
とんおしとて感おれ詞り情がわあはらうら雨はよく
頻る隣家より入来り、雅人乃おまおれおむ

粟おはるし書し針おら

一賑しれまごんじやんと擡出はる流禱の鑄癖は

友ありしにゑるる山乃谷間こりや
少列ぬ鐘やさ、涼音あり

しり斜ふりしし漸、晴るる物のかう
農業之故や極つたは、
一修り附下さるるや、
徳歌の流や由り、
水の方

中將姫乃妹君あり横秋大臣豊成卿乃息女なり
しり此家視眞勝殿乃や、
帝、遂に毎わく天国乃御劍の流、
みつるに今に侍り、

上小志の境の宮辨々天女と祝ふ
長六尺なり、
水涌出るる境、
形、
あ、
椿木なり、

ま月天千け、

福地坂本村を丹生山の、
山を南西に、
村の西に、
い、
名、

龍馬尾ハ苗ニ鴉々ありき也（一）

小野丹平言ハ 並ぬけ多し余ヶ邑を山田庄とて
 八部ニ分りし西下谷村善後及一小部をて之めり
 廿二日 又の谷越へてふを山田庄村小西川村とて
 村々の又南に河川村車村越へて村々
 乃東へて道に山田庄を西に接接の境あり
 出づ太山寺のうへ路をヤリ越へて
 明々三里

あかり

人磨社奉納

余世子をありて
 思ふに心を奉納

鉤福々々々乃紋帳 仲贈

又而ていぬし仲云々支つや
 鉤福をいぬし仲云々支つや
 茶店ノ様ニ下あり

幽霊ガツツ々々乃声 録

月小三日寺各の管目ハハも涼
 院とて国道の 於たり二人がり

二子ヲ發ス

鐵梯乃家ノより道落 小足々々々々
 のほろり性 義経公の
 庫り 借身宝物
 の武久 北ノ家ノ先祖
 志ノ人 旗陳幕

松凡村西の鏡井より村入みり傍ありを補給
云々... 二、三町... 杉石塚... 傍かる石性の丸...

カキも健く若くは教の恙あり

原へ、場り、山、橋、中へ、乃、道、文を... 舟の、園、道、子に... 梅史館、たら、あり、舟... 官村、是より、危原郡... 布引、乃、孔流、直下、平、田、虫の、す、ぬ

碇へは、永八也旅

熊内村、下、ま、く、松、原、つ、ま、小、村、お、月、の、と、ま、り、の、何、吉、村、お、所、の、多、み、人、多、し、や、成、為、を、多、く、一、名、を、乞、小、明、石、本、守、其、交、代、早、

大名、平、式、を、か、き、ま、り、く

乃、社、を、修、葺、屋、村、を、修、け、む、り、あ、ま、り、と、幸、あ、り、う、し、の、角、小、山、に、樹、を、掛、け、お、き、り、あ、ら、ひ、五、日、け、小、端、牛、也、

あやめ、家、葺、を、か、り、く、の、國、也

打出村、り、り、か、い、れ、を、た、り、越、水、村、廣、田、か、い、り、甲、山、神、呪、寺、の、ゆ、り、武、庫、郡、川、を、越、眼、下、小、又、く、お、り、人、海、乃、く、お、多、網、乃、中、小、紀、山、泉、山、に、こ、り、か、つ、こ、り、合、剛、山、八、白、在、突、つ、絶、系、終、り、こ、り、干、峙、歡、樂、極、哀、情、多、乃、雲、忽、起、手、あ、り、カ、カ、山、や、ほ、く、を、涼、ま、す、歎、雨、雨、霞、波、危、角、峰、山、り、り、は、一、途、致、下、了、川、系、を、終、下、ら、う、也

麻埴の村か多しけし山不あり西宮方神宮の唐
 とてましく歎けりよし川田川林磯志村山上平汗あり
 潮りかよふ不ありと出庫川系へくかかろふ以幅七八所
 一推し一帯ハ一所計をそかろ侍り小林の上小ゆつる紫
 標々山嶽ありあつるよ波地ふ卦

向ハ川多し新築谷小流を過中山を成乾院尔やと
 川わさ日山に新井の市を以て多田卿を通過して六
 このよまを大中の大雨が谷の川の流をむつりか
 よしゆりまは伊丹の謀合をも打通る事神宮の
 出小の意けりまは洪水をわす寸次小十をさるる
 ○猪ヶ尾山の一名般若堂は
 已ゆるはゆき落しをさるる事
 福島山
 大坂乃塔
 入

ぬくろ抱、唐野苑のもま看ふり

歌 僊 行

禪一好ちあまのつらふりく
 か髪をけをを玉磨く庵
 けめをりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけり
 儉接小白を仲梅あけ誰也
 善る麦畑うら瘴月水鞘
 嚏まあけくまりけりけり
 下絶良發 返り去りけり

初良能
 賛柳
 仙客
 童子
 芦従
 假韶
 虫彦
 宰門

むすこめを靴もらうと 膝をすけ

旅も難方乃根 波の浪は塚

名ウ 垣と手百年かきり 花あらし

けしきさうと通し 草す結

羊羹ら萬丈不當乃名し

月あらし井戸かきえ 體速

七尺を海牙あけし 美乃杖

春のあけしハ 又馬も けらしも

壽

師乃師を祝ふかのと 抄りよに未竟のころ けしきさうもかた
大句で再んけしき ぬ世も 配りし けしきさうの丈板入の句
半して 髪柳のあし根を けしき 仙史の丈板入の句
ふし けしきさう 浦を けしき けしきの けしきを けしき けしき
連中



